成果の説明書

(氏名) 髙橋　済	(学部)　経済学部

1　重要事項

【研究活動】

◆ 論文執筆

① 昨年度から継続して取り組んでいる”Interactions among Local Governments over the Provision of Nursery Facilities: Comparison between Two Metropolitan Areas”を国内誌向けに改稿し、投稿に向けた準備を進めた。

② 昨年度から継続して取り組んでいる”Strategic Behaviors in Developing the Provision Policy for Nursery Facilities in Japan: Resource-Flow or Yardstick?”について、査読を踏まえて理論面の考察を補強し、実証推計式をより簡潔な形に見直した。

③ 昨年度から継続して取り組んでいる人口移動と地域の持続可能性に関する研究“A Study of Regional Sustainability in Japan: Migration, Economy, and Demographics” について、経済地理学の理論的検討を進め、人口動態式の改訂を実施した。

◆ 競争的資金の獲得

④ 2026 年度科学研究費助成事業（若手研究）に採択された。採択課題は「複数地域一般均衡モデルを用いた人口減少要因と持続可能性政策の検証」であり、人口減少問題と地域の持続可能性に関する実証的知見の蓄積を目指す。

【教育活動】

◆ **現代経済入門Ⅰ・Ⅱ**　　前期 320 名、後期 263 名を対象に開講した経済学の基礎科目。それぞれ、前半に経済学の基礎知識を解説し、後半でトピックを経済学で考察する形式の授業を行った。授業出席、専門用語の整理や教科書の学習法、AI を用いる際の注意点など、大学での基本的な学習方法に焦点を当て、トピックを時事性の高い物価・金利を扱う内容に改め、WebClass を活用するなど、学生が経済学の基礎知識と大学での学習方法を身につけやすい授業形式を工夫した。

◆ **中級マクロ経済学Ⅱ**　　景気循環論や経済成長論、財政政策・金融政策といったマクロ経済学の発展的なトピックを扱っている。これらの発展的なトピックの理解に必要となる、マクロ経済学に関する基礎知識や数学に関する知識を授業中に適宜復習し、これらを扱う練習問題も改訂・配布し、基礎知識を補いながら発展的内容を学べるよう授業を設計した。

◆ **基礎演習**　　経済学の基本的な知識と、発展的トピックを確認するために、『経済学って何だろう現実の社会問題から学ぶ経済学入門』(新世社)を、2 名 1 組が報告する形式で輪読した。教科書の重要な箇所や補足説明が必要なところでは、適宜解説を行った。合間には、文章の書き方や文献の調べ方について基礎的なレクチャーを行い、大学での学習に必要な技能の習得を支援した。

◆ **演習Ⅰ**　　ミクロ経済学の問題集である『ミクロ経済学の技』(日本評論社)と、マクロ経済学の読本である『マクロ経済学のナビゲーター』(日本評論社)を 2 名 1 組が報告する形式で輪読した。報告の合間には、文章の書き方に関するレクチャーを行い、卒業研究のテーマ設定と仮要旨の作成にも取り組ませ、研究準備を段階的に進めた。

◆ **演習Ⅱ**　　『経済論文の書き方』(日本評論社)により、経済学論文の書き方を学習し、『R による計量経済学 第 2 版』(オーム社)により計量経済学を用いたデータ分析の手法を身につけた。これらの教科書の解説は春学期に行い、秋学期は教室や研究室での論文執筆の直接指導や質問対応を実施し、各自 15 分程度の研究報告を実施した。学期末に論文の添削を複数回行い、卒業研究論文集として成果を取りまとめた。

２　その他の事項

◆ **地域貢献活動**　　地域科学研究所開催の公開講座において、講義『物価と金利を考える』(連携公開講座)を実施し、県内の物価や金利の動向を解説した。また、群馬県立前橋南高校において、出前授業『なぜ人は都市に集まる？-地域から学ぶ入門経済学-』を実施した。

◆ **社会貢献活動**　　財務総合政策研究所（財務省）の客員研究員・指導教官として、論文指導等を行った。また、総務省関東管区行政評価局意見交換会(令和７年度)に参加した。加えて、教育活動の一環として以下の活動を行った。

① 群馬行政監視行政相談センターとの共催で行政相談出前講座を開催した。

② 群馬県庁での行政訪問を実施した。

３　次年度以降の計画・抱負

【研究活動】

◆ 論文執筆については、学会報告や投稿作業、国内研究者との積極的交流を通じて、既存の研究蓄積の見直しと理論・実証両面の検討を進め、国内外の査読誌での公刊を目指す。

◆ 『国勢調査』の職業別人口移動データを用いた、地域別の生産性の研究の精緻化をさらに進め、次年度以降の公表・公刊を目指す。

【教育活動】

◆ 学生に直接ニーズを尋ねるなどして教育上の課題把握に努め、授業内容・授業形式の継続的改善を行う。

◆ **現代経済入門Ⅰ・Ⅱ**については、時事性・社会性の高いトピックの調査や内容の改訂、引用する記事等の更新を行い、時事性を踏まえた内容更新を行う。

◆ **中級マクロ経済学Ⅱ**においては、学生が効率よくマクロ経済学の発展的内容を学習できるよう、既習分野の補足事項、数学補論や授業課題の内容の検討・改定を行う。

◆ **基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ**では、学生の意見を積極的に踏まえつつ、学生が経済学を理解し、社会問題の考察への応用力を身につけられるような、カリキュラムを検討する。また、学生の社会的関心を喚起する校外学習の実施を検討する。

【その他の事項】

◆ 昨年同様に、大学・地域のニーズに応じて研究・教育活動を行うほか、財務省での客員研究員の活動、行政機関との協力、地域経済に係る研究も積極的に行い、研究者としての特性を生かした多層的な社会貢献を行っていく。

◆ 獲得した競争資金を基盤に、研究の精緻化・発信力の強化を戦略的に進め、研究成果の幅広い社会還元を積極的に実施する。